

新入生を迎えることば

田畑 雅英

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ご列席のご家族、ご関係の方々にも、心よりお祝いを申し上げます。

本学の直接の前身である帝国女子専門学校は 1909 年に、現在で言えば東京都文京区に設立されましたが、1945 年 4 月の空襲で校舎が全焼し、翌年に神奈川県相模原市の現在地に移転しました。それ以後今日まで、80 年間の長きにわたり、地域の皆様のご理解ご協力をいただきながら発展を続けてまいりました。その本学の相模原 80 周年の入学式に、本村賢太郎相模原市長にお忙しい中、来賓としてご臨席いただきましたことは、たいへんありがたいことと存じ、厚くお礼申し上げます。

そうした今年度、本学は、学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部に地域クリエイション学科という、二つの新しい学科を開設し、それぞれ初めての入学生の皆さんを迎えています。国際間の交流は近年ますます盛んになり、相互理解の重要性は一層高まっています。日本の地域社会においても国際的な多様性がますます著しくなる中で、国際性を身につけた人材の育成は本学にとっても重要な課題です。国際コミュニケーション学科の開設は、この課題に応えようとするものです。また、本学はこれまで 20 年近く、全国各地において積極的に地域連携活動に取り組んでまいりましたが、地域創生と活性化を総合的に学ぶ地域クリエイション学科の開設は、これまでの活動の一つの結実と考えております。新学科入学生の皆さんはいわば学科の第一期生であり、これから学科の歴史を作っていく、その先頭に立っているわけです。どうか誇りをもって、学生生活を送ってほしいと思います。

さて、新たにこれから 4 年間の大学生活を送られる皆さんに何をお話ししようかと考えているうちに、「セレンディピティ」という言葉を思い出しました。「セレンディピティ」とは、簡単に言えば「偶然に幸運に出会うこと」あるいは「幸運に出会う能力」のことで、18 世紀イギリスの政治家であり作家であったホーレス・ウォルポールによる造語であるとされています。科学においては、あるテーマで研究や実験などをしているときに、偶然にまったく別の真理を発見する場合などに使われる言葉でもあります。

もうずいぶん以前になりますが、日本でこの言葉がよく話題になった時期があり、大学の入試問題でも「セレンディピティを高めるにはどうすればよいか」といった問題が出たりしていました。もしセレンディピティが一つの能力だとしたら、この問いは一見矛盾を含んでいるようにも思えます。人の力で幸運に出会うことができるのなら、それはもはや偶然の「運」とは言えないと思われるからです。

しかし、私は必ずしも矛盾だとは思いません。最終的に人為だけではどうにもならない部分は残ると思いますが、かなりの程度においてセレンディピティを能力として高めることはできるよ

うに思います。

この言葉のもと、『セレンディップの三人の王子たち』というベルシアのおとぎ話で、王子たちが旅の途中で、旅の目的とは無関係な幸運や発見に出会っていくところから来ています（ちなみに、セレンディップとはスリランカのことです）が、ここからセレンディピティを高めるための三つの要素が拾い出せるように思います。

第一は、王子たちが日常を離れて、旅に出ていることです。これは何も、実際の旅である必要はありません。たとえば本を読むこと、マンガやアニメを見ること、ライブに参加することなどは、いずれもいわば心の旅のようなものであって、そうしたことの中に思わぬ発見の芽はたくさん潜んでいます。ですから、積極的にさまざまな分野の本を読み、さまざまなコンテンツに触れることによって、新たな発見をする機会は増えるはずで。

第二は、本来の目的とは無関係に幸運が発見されていることです。ウォルポールは、セレンディピティの説明において、王子の一人が、道の左側の草だけが食べられていることから、少し前に片目のロバが歩いていたことを察知するエピソードを挙げていますが、王子たちはそういうことを発見するために旅をしているわけではなく、意図していない発見に偶然に出会うのです。これをもう少し広げて申しますと、自分がもともと持っている関心だけを追い求めるのではなく、関心の幅を意識的に広げ、ふだん関心がなかったものにもできるだけ触れることが、自分がこれまで気づかなかったことを発見させる結果を生むことになります。

第三は、先ほどのロバについての発見は、道端の草という、見落としてしまいがちなものへの注意があって初めて成り立つということです。せっかく発見のきっかけがそこに見えているのに、幸運がそこに顔を出しているのに、それに気づかず見過ごしてしまうことは、実はしょっちゅう起こっているかもしれません。その幸運を逃さず捕まえるには、ふだんから観察力、注意力、基礎的な知識や理解力を磨いておくことが必要でしょう。そして、ここまでくれば、必ずしも「旅」に出なくても、日常の中で新たな「発見」や「幸運」を見出すこともできるように思います。

こう考えてくれば、発見や幸運に出会うだけでなく、それを逃さず捕まえるためには、ふだんからの心がけや努力が重要だということになります。つまり、そうやってセレンディピティは高められるのです。大学の4年間は、自分の自由になる時間も多く、これまで関心が薄かった事柄にも取り組む絶好の期間です。そうすることによって、これまで知らなかった自分に出会い、自分の可能性を広げて、ぜひ卒業後の豊かな人生の基礎を作ってください。私たち教職員もできる限りの支援をしていきます。

栄養科学研究科に入学された皆さんにも一言申し上げます。少子高齢化の社会になり、「人生100年時代」とまで言われる現代において、QOLの維持に関わる栄養学への期待はたいへん大きなものがあります。もちろん学問は実益に資する面だけでなく、真理追求という自律的な価値を持つことは言うまでもありませんが、どうかさまざまな困難にめげず、優れた研究成果をあげられることを願っております。

社会起業研究科の新入生の皆さんにも一言申し上げます。皆さんが研究の対象にされるのは現

実の社会です。そこにあるのは抽象的なデータでは拾いきれない多様な人々の多様な現実であり、多様な願いであり、多様な絶望でもあります。どうか皆さんは、自らがその社会の一員でもあることを忘れずに、他人事としてではなく、つねに「自分の事」として社会にコミットする意識と知識・技術を身につけるよう、しっかりと研鑽に励んでいただきたいと願っています。

簡単ではございますが、以上をもちまして、新入生を迎えることばといたします。あらためまして、ご入学まことにおめでとうございます。